

平成26年度 普及活動成果集



*Regional
promotions*



Flowers



Common crops

*to pass farming
onto the next generation ...*

for agriculture in Yame ...



Green teas



Vegetables



Fruits

福岡県筑後農林事務所 八女普及指導センター

平成27年3月

はじめに

八女地域は、県内屈指の農業地域であり、イチゴを始め、電照ギク、荒茶、米、トマト、ナス、ミカン、ブドウ、キウイフルーツ、ガーベラ等の主要品目は、県内の上位です。

総農家戸数 7,280 戸、うち主業農家 2,107 戸(2010 年センサス)、認定農業者数 1,217 経営体(平成 26 年 3 月末)で、主業農家と認定農業者は県内の約 2 割を占めています。

当普及指導センターでは、本年度、次の農業振興の方向のもと、重点課題と一般課題を設定し、生産部会・JA・市町等の関係機関・団体と連携し、普及活動を展開しました。

(農業振興の方向)

- ・ 農産物の価格低迷や生産資材高騰による所得率低下があり、認定農業者等の経営体質強化を図る。また、女性農業者の経営参画や起業を促進。
- ・ 水田農業については、集落営農組織の法人化、既存法人の経営安定、大規模農家の経営強化を図る。また、県育成品種の水稻「元気つくし」・小麦「ちくしW2号」や優良種子の高品質・安定生産を図る。
- ・ 野菜・花き・果樹については、産地改革強化計画の目標達成を図るとともに、八女園芸農業を担う雇用型経営を育成する。また、新規導入品目と新規参入者の拡大を図る。
- ・ 中山間地域では、茶の振興・経営安定を中心に、複合品目導入や推進品目の生産出荷販売体制確立を推進。また、茶への嗜好性の多様化に対応する需要喚起の取組を推進。
- ・ 農業士・女性農村アドバイザー、関係機関と連携し、新規就農者の育成・確保を図るとともに、4Hクラブ員等の青年農業者の資質向上を推進。

また、2012 年 7 月の豪雨災害により、中山間地域を中心に甚大な被害を受けました。災害からの復旧・復興のため、八女市農業復興推進会議を中心に関係機関一体となって、被災農家の経営状況把握や経営・技術の支援を行いました。

この活動成果集は、数年取り組んでいる活動も含め本年度の主な成果をご報告するものです。経営改善や技術向上の手法、地域や産地の振興方策などを参考にいただき、今後の農業経営の改善、地域農業の発展に、ご活用いただければ幸いです。

平成 27 年 3 月

福岡県筑後農林事務所八女普及指導センター長 伊藤忠義

目 次

	ページ
1 八女地域農業の概要	1
2 普及活動推進体制	2
3 普及活動成果	
(1) 八女の園芸振興と新規参入への支援	3
(2) 永続可能な土地利用型担い手の育成	5
(3) 茶生産農家を主体とした中山間地農業の振興	7
(4) 新規就農者の確保	9
(5) 県育成品種の生産拡大と品質向上	1 1
(6) なす部会の活性化のための冬春なす新規生産者支援	1 3
(7) 青年農業者の育成	1 4
(8) 中山間地を中心とした茶工場経営体の育成・確保	1 5
(9) 花き農家の経営改善	1 7
(10) ナシの重要病害赤星病の発生状況と対策	1 9
4 平成 26 年の気象と各作物の生産概況	2 1
5 平成 26 年度 表彰事業実績	2 3
6 平成 26 年度 実証ほ一覧	2 5
7 平成 26 年度 現地活動情報	2 6

1 八女地域農業の概要

- 管内市町は、平成 22 年 2 月 1 日に八女市、黒木町、立花町、星野村、矢部村が広域合併し、八女市、筑後市、広川町の 2 市 1 町となった。
- 立地条件は、星野川、矢部川の流れに沿って東部から山間地、山麓地、丘陵台地、平坦地に区分され、耕地は標高 5m から 700m に存在する。
- 平成 25 年の耕地面積は、9,687ha（田 4,530ha、畑 5,157ha）で、平成 20 年より 489ha（田 78ha、畑 411ha）減少し、年々減少傾向にある。特に畑面積の減少が大きい。
管内耕地の大きな特徴は、その半分以上を畑が占めていることであり、畑作を中心に園芸農業が盛んとなった要因でもある。
- 2010 年の総農家戸数は 7,280 戸（うち販売農家数 4,919 戸、68%）、農業就業人口は 9,876 人で、2005 年より、20% 前後減少した。特に筑後市の減少が大きい。
- 平成 25 年の認定農業者数は 1,217 経営体（前年 1,232 経営体）で減少傾向、平成 25 年の新規就農者数は 49 人（前年 23 人）で Uターン（29）や新規参入（14）が急増した。
- 平成 25 年の米麦等の生産組織数は、新たに 2 法人が設立されたため 30 組織となり、やや増加した。内訳は法人 20 組織、任意 10 組織となり、法人組織が 66% になった。
- 平成 25 年の生産販売については、管内は県内屈指の農業生産地帯であり、J A ふうおか八女の平成 25 年度農畜産物取扱額は 246 億円と前年をやや下回ったものの、県内 J A の最大級の取扱額となっている。なお 246 億円の作物別内訳は、普通作 18 億円、果樹 73 億円、野菜 84 億円、花き 40 億円、特産（茶）29 億円等となっている。

1 耕地の概況（資料：農林水産統計年報）

耕地面積 (ha)	年 度	八女市	筑後市	広川町	合計	対比率
	20 年度	7,266	2,065	845	10,176	95.2
	25 年度	6,830	2,030	826	9,687	
うち田	20 年度	2,552	1,650	406	4,608	98.3
	25 年度	2,500	1,630	400	4,530	
うち畑	20 年度	4,714	415	439	5,568	92.6
	25 年度	4,330	401	426	5,157	

2 農家の動向（資料：農林業センサス）

項 目	年	八女市	筑後市	広川町	管内計	対比
農業就業人口 (人)	2005	9,043	2,339	1,438	12,820	77.0
	2010	7,471	1,297	1,108	9,876	
総農家数 (戸)	2005	6,053	1,511	775	8,339	87.3
	2010	5,575	997	708	7,280	
うち販売農家数	2005	4,365	1,230	596	6,191	79.5
	2010	3,766	628	525	4,919	

1 八女地域農業の概要

- 管内市町は、平成 22 年 2 月 1 日に八女市、黒木町、立花町、星野村、矢部村が広域合併し、八女市、筑後市、広川町の 2 市 1 町となった。
- 立地条件は、星野川、矢部川の流れに沿って東部から山間地、山麓地、丘陵台地、平坦地に区分され、耕地は標高 5m から 700m に存在する。
- 平成 25 年の耕地面積は、9,687ha（田 4,530ha、畑 5,157ha）で、平成 20 年より 489ha（田 78ha、畑 411ha）減少し、年々減少傾向にある。特に畑面積の減少が大きい。

管内耕地の大きな特徴は、その半分以上を畑が占めていることであり、畑作を中心に園芸農業が盛んとなった要因でもある。

- 2010 年の総農家戸数は 7,280 戸（うち販売農家数 4,919 戸、68%）、農業就業人口は 9,876 人で、2005 年より、20% 前後減少した。特に筑後市の減少が大きい。
- 平成 25 年の認定農業者数は 1,217 経営体（前年 1,232 経営体）で減少傾向、平成 25 年の新規就農者数は 49 人（前年 23 人）で Uターン（29）や新規参入（14）が急増した。
- 平成 25 年の米麦等の生産組織数は、新たに 2 法人が設立されたため 30 組織となり、やや増加した。内訳は法人 20 組織、任意 10 組織となり、法人組織が 66% になった。
- 平成 25 年の生産販売については、管内は県内屈指の農業生産地帯であり、J A 福岡八女の平成 25 年度農畜産物取扱額は 246 億円と前年をやや下回ったものの、県内 J A の最大級の取扱額となっている。なお 246 億円の作物別内訳は、普通作 18 億円、果樹 73 億円、野菜 84 億円、花き 40 億円、特産（茶）29 億円等となっている。

1 耕地の概況（資料：農林水産統計年報）

耕地面積 (ha)	年 度	八女市	筑後市	広川町	合計	対比率
	20 年度	7,266	2,065	845	10,176	95.2
	25 年度	6,830	2,030	826	9,687	
うち田	20 年度	2,552	1,650	406	4,608	98.3
	25 年度	2,500	1,630	400	4,530	
うち畑	20 年度	4,714	415	439	5,568	92.6
	25 年度	4,330	401	426	5,157	

2 農家の動向（資料：農林業センサス）

項 目	年	八女市	筑後市	広川町	管内計	対比
農業就業人口 (人)	2005	9,043	2,339	1,438	12,820	77.0
	2010	7,471	1,297	1,108	9,876	
総農家数 (戸)	2005	6,053	1,511	775	8,339	87.3
	2010	5,575	997	708	7,280	
うち販売農家数	2005	4,365	1,230	596	6,191	79.5
	2010	3,766	628	525	4,919	

3 普及活動成果

(1) 八女の園芸振興と新規参入への支援

～複合経営の推進と新規参入で園芸産地の維持を～

【要 約】

経営相談会や研修会、経営分析等を活用し、雇用型園芸農家の育成を行っている。また、作物振興相談会での新規栽培者の掘り起しや新規園芸作物導入推進、さらに栽培開始後の技術支援を行った。その結果、新規園芸作物導入面積は 279a、新規就農者数は 30 名増加した。

【目 的】

園芸農業の担い手は高齢化が進み、生産者の減少などにより栽培面積と生産量が減少し、産地規模が縮小の傾向にある。そこで、既存生産者の規模拡大や新規参入者等の育成が急務となっている。

そこで、雇用型経営を目指す農家の育成と複合経営志向農家、新規参入希望者に対し技術などを支援し、園芸作物の維持拡大を図る。

1 活動対象の概況

J Aふくおか八女 野菜部会等 (2,047 人) 8,777 百万円、花き部会等 (412 人) 4,125 百万円、果樹部会 (2,117 人) 6,482 百万円 園芸作物志向農家および新規参入希望者 (平成 24 年度)

2 活動の内容等

(1) 雇用型経営体育成

普及センターと農推協主催により、中小企業診断士による個別経営相談会(7 件)や経営支援農家などに対して税理士による雇用型経営研修会を開催した。

(写真 1)

イチゴ経営で、調製作業に雇用を導入している経営体の実態調査を行った。

認定農業者経営改善計画作成支援時に雇用型経営の推進を行った。



写真 1 個人経営相談会

(2) 園芸作物の生産拡大

作物振興推進会議を定期的で開催した。

農業者向け作物振興相談会を 8 月に 8 地区で地区推進品目を設定し、開催した(写真 2)。

併せて、品目毎の栽培講習会を行い、技術向上を図った。



写真 2 作物相談会

(3) 新規参入への支援

5月に農外からの就農希望者を対象にした新規就農相談会を開催、県農業大学校学生への勧誘を実施した(写真3)。さらに、市町、JA、農振協との連携により、個別毎の支援を行った。



写真3 新規就農相談会

3 活動の成果

(1) 雇用型経営体育成

雇用型経営体数は4戸増加。

(2) 園芸作物の生産拡大

新規園芸作物導入面積はイチゴ8名61a、トマト10名140a、ナス2名30a、ブドウ2名15a、イチジク1名4.5aが増加。合計279a、他の品目はアスパラガス、シンテッポウユリの新規作付けがあった。

(3) 新規参入への支援

新規就農相談会には23名の参加があり、継続して就農に向けた支援を行っている。26年の農家研修生は9名であり、このうち4名が就農した。平成26年度の新規就農者数は30名である。

4 今後の見通し又は課題

(1) 家族経営から規模拡大を目指した雇用型経営への誘導促進。

(2) 新規作物導入農家及び新規就農者の継続的育成と定着化に向けて栽培技術、資金や事業活用支援。

新規参入者に対しては、参入前の営農意欲の確認や農村地域での生活全般についての理解を深める。

(3) JAの新規就農者研修施設(27年8月開設予定)開設に向け関係機関と協議中。

課題名：八女の園芸振興と新規参入への支援 平成25～27年度

(2) 持続可能な土地利用型担い手の育成

～担い手の課題に応じた支援で運営改善をめざす～

【要 約】

法人に対しては経営改善計画や法人相談会で明確になった課題・目標（米・大豆の安定生産や野菜の導入など）の具体化を進めた。野菜栽培では農協との連携により収量が向上している。

任意組織のうち法人化等に意欲ある組織を対象に、集中して支援したことにより1組織が法人登記し、農地中間管理事業により農地を集積した。

個別担い手に対しては大豆麦生産体制緊急整備事業を活用し、経営規模拡大を図った。

【目 的】

農業法人では、経営改善目標を設定し、その改善に向けた取組を支援しながら、生産力の向上、経営の安定を進める。

法人化に意欲のある組織の法人化、大規模農家の経営の強化を進め担い手育成を図る

1 活動対象の概況

(1) 大規模農家 水稻作付面積5ha以上 17戸

(2) 組織経営体

	農事組合法人					集落営農組織				
	組 数	組 織	構 成 員	水 稻 (ha)	麦 大豆	組 数	組 織	構 成 員	水 稻 (ha)	麦 大豆
八女市	2		13	20	15	2		464	59	359 60
筑後市	18		827	471	752 321	6		153	85	150 46
広川町	—		—	—	—	2		23	—	34 —
合計	20		840	491	752 336	10		640	144	543 106



写真1 先輩法人による法人化研修



写真2 ラー麦に穂揃期追肥



写真3 法人のキャベツ圃場を巡回指導

2 活動の内容等

(1) 法人の経営安定

ア 米麦大豆の生産安定を支援した。

米は、モチの登熟後半にウンカの増殖を確認し、補正防除の指導を行った。ラー麦は、穂揃期追肥の研修会を開催し、施肥の徹底を図った。大豆は、適期播種の徹底により、生育量が確保された。プラウ耕の推進などにより、排水の促進、生育

収量の向上を図った。

イ 新規法人に対しては経営改善計画作成を支援した。

ウ キャベツは、農協の営農指導員と連携し現地巡回や販売計画の検討を行い、生産を支援した。

(2) 法人化の推進

関係機関が役割を分担し、平成25年11月以降、八女市で2組織、筑後市で1組織の法人化支援を実施。他にも立花町（立花地区営農組合）、広川町でそれぞれ1組織、筑後市で2組織に対し、法人化を推進している。

(3) 大規模農家の経営強化

農業経営改善計画の作成支援を通じて、経営の運営・展開を助言。また、経営継承直後の青年農業者について、個別に技術支援を実施し、生産・経営の安定に寄与した。

3 活動の成果

(1) 法人の経営安定

ア 米麦大豆の生産安定では、ラー麦のタンパク質含有率の向上（H25年産11・2%→H26年産11.8%）が図られた。

イ 園芸導入では、八女市の1法人が経営計画に基づき10月からレタスを定植。筑後市でカリブロ試作が1法人あった。

ウ キャベツは、栽培面積が減少（H23年度4.4ha→26年度3.7ha）したものの、生育・収量・品質は年々向上している。

(2) 法人化の推進

筑後市の1組織が7月に法人登記し、26haを農地中間管理事業で集積した。

(3) 大規模農家の経営強化

大豆麦生産体制緊急整備事業を活用し、ブームスプレーヤー導入農家は規模を拡大しつつある。

4 今後の見通し又は課題

(1) 法人の経営安定

ア オペレーターの確保や米・麦・大豆・キャベツの安定生産等法人毎の課題解決に向けた取組が必要である。

イ 組織に対し個別に野菜による収入確保の取組（収量の安定、コスト低減）を継続して推進する。

(2) 法人化の推進

既存組織に対する法人化を推進する。また、地域によっては、土地利用型担い手として受託組合・営農組織の育成を推進する。

(3) 大規模農家の経営強化

個別担い手育成の重要性について関係機関とともに理解を深め、カウンセリング、栽培指導を通じ生産の安定、規模拡大を図る。

課題名：永続可能な土地利用型担い手の育成 平成24～26年度

(3) 茶生産農家を主体とした中山間地農業の振興

～複合品目導入拡大等への支援～

【要 約】

茶経営を主体とした中山間地域の認定農業者を中心に、複合品目の導入や規模拡大を支援した。またワサビ、ユズ、ブルーベリー、切り枝等地域で新しく振興の動きがある品目の生産拡大や農産加工品の開発を支援した。

茶の複合品目として7名が新規作物に取組、8名が既存品目の規模を拡大した。ユズ、ブルーベリーは生産量が増加し、ワサビは新しくトンネル栽培の取組を始めた。切り枝は新規市場への出荷が拡大し、また、新しくシャクナゲ切花の出荷が始まった。

【目 的】

中山間地域には茶生産農家が多く、荒茶単価の低迷により経営が厳しくなっている。そこで、茶農家への複合品目の導入・拡大や八女市矢部村、星野村で新しく振興の動きのある品目の育成、農産物加工品の充実を通じ、総合的に茶農家の経営安定と中山間地農業の振興を図る。

1 活動対象の概況

表1 茶経営を主体とした経営改善志向農家

旧町村	黒木町	上陽町	矢部村	星野村	計
人 数	14	14	5	27	60

表2 ワサビ、ユズ、ブルーベリー、切り枝研究会(120名)

品目名	ワサビ	ユズ	ブルーベリー	切り枝	計
人 数	8	21	33	58	120
面 積	47.5a	239a	—	430a	

・農村女性グループ星野清流(16人):平均年齢65歳、55～65才未満8人、65才以上8人

2 活動の内容等

(1) 茶経営を主体とした認定農業者の経営安定

アンケート調査で茶と複合経営の導入や既存品目の規模拡大の意向を示した農家に対し、面談で詳細な内容等を調査した。茶の複合経営に向く8品目を導入するシミュレーションや、茶の作業に合わせて労働競合に配慮した作型を提案するパンフレットを作成した。これらは、経営改善を志向する農家への郵送や茶の栽培講習会等の機会を利用して配布し、啓発を行った。新規作物の導入を検討する農家に対しては、現地指導及び情報提供を行った。

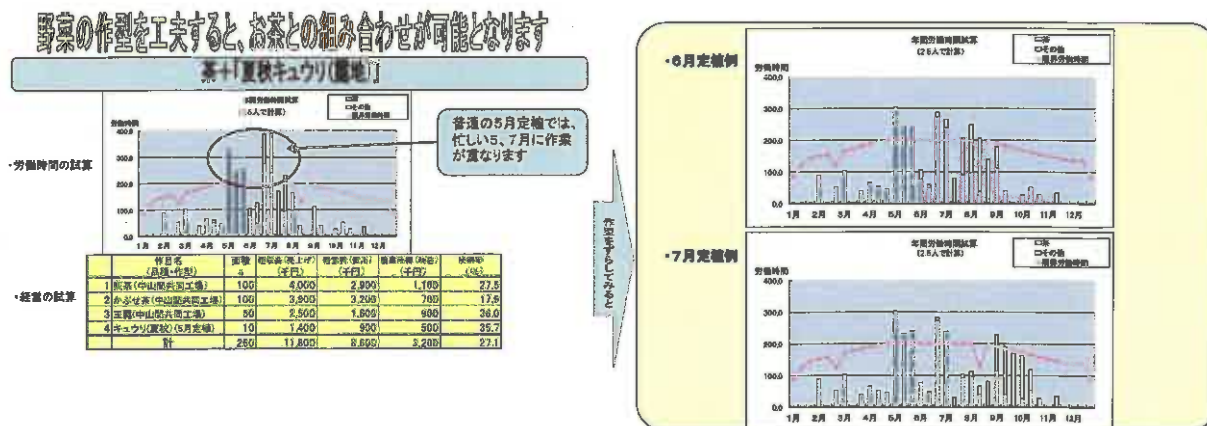


図1 労働競合に配慮した複合経営類型例



写真1 災害復旧田への新規作物作付の指導



写真2 ワサビのトンネル栽培実証



写真3 茶の実の収穫作業

(2) 振興品目の生産販売支援

ワサビは生産技術の安定化を支援した。ユズは高品質生産の指導、販売対策会議を開催した。ブルーベリーは青果の出荷を推進するとともに加工品の出荷先開拓を支援した。切り枝は高品質生産の指導を徹底するとともに新規市場の開拓を行った。また、シャクナゲは出荷に向けた荷姿等を検討し、H26年度から出荷が始まった。

(3) 農産加工品の開発

直売所の集客力向上のため、オリジナル商品の充実を支援した。

3 活動の成果

(1) 茶経営を主体とした認定農業者の経営安定

新規品目としてイチゴ、ハウレン草、ブルーベリー、クリ、ユズに各1名、直売所向け野菜に2名が新たに取り組んだ。また既存品目では、水稻、イチゴ、トマト、ミニトマト、キウイ、トマト、直売所向け野菜を計8名が規模拡大した。なお、実際に導入には至らなかったが、7名が新規作物の導入を検討した。

(2) 振興品目の生産販売支援

ワサビは、出荷先、出荷形態の変更により、5.1tの売上げに留まった。現在、さらなる中山間地への普及拡大に向け、水稻裏作でのトンネル栽培体系を検討している。ユズは、ほぼ計画通りの2.6tを出荷した（H25年産）。ブルーベリーは好天にも恵まれて青果の出荷量、（H25比106%）、金額（同145%）、単価（同153%）ともに前年を大きく上回った。切り枝は出荷先を3市場拡大し、計画通り50万本の出荷となる見込み。また、シャクナゲはH26年度から共同出荷が始まり、関西中心の8市場へ1,540本（281千円）出荷した。

(3) 農産加工品の開発

2商品の開発を支援し、オリジナル商品が計7種類となった。現在、茶の実油の商品化に向けて支援を継続している。

4 今後の見通し又は課題

八女地域農業振興推進協議会中山間地部会と連携し、地域に適した品目の選定や推進、生産の指導を行う。茶経営を主体とした認定農業者の複合経営への取組に対しては、今回整理した資料等を活用して要請に応じた支援を継続する。

課題名：茶生産農家を主体とした中山間地農業の振興 平成24年～26年

(4) 新規就農者の確保

～ワンストップの就農相談体制を構築～

【要 約】

新たに農業を始めたいと希望する者への対応（就農相談）を、JAと市町、普及センターが一体となって行えるよう、八女地域農業振興推進協議会（構成：JAふくおか八女、管内各市町、普及指導センター等）内に「新規就農支援対策会議」を設置し、「就農サポートシステム」を構築。その結果、平成24年度に始まった青年就農給付金制度の活用と相まって、管内の新規就農者は49名（25年度）と前年度の約2.5倍に急増した。

【目 的】

就農相談がワンストップで円滑に行えるよう、相談者目線に立った体制を整備し、相談から研修受入、就農準備（就農計画の作成等）、就農後の定着に向けたフォローまで、トータルでサポートできるシステムを構築する。

1 活動対象の概況

就農相談件数：81件（25年度）、99件（27年1月末現在）

2 活動の内容等

(1) 新規就農支援対策会議

関係機関で構成する本会議（事務局：JA）を概ね毎月開催し、新たな就農相談の内容はもとより、これまでの就農相談の進捗状況や遊休ハウスの把握と活用等について協議を行っている。さらには、JAが平成27年に整備予定の研修施設について、募集や運営の方法等について検討している。

(2) 就農相談会の開催

新規就農支援対策会議の主催による就農相談会を実施。青年就農給付金制度の活用や研修先の案内等、各相談者に応じたきめ細かな対応を継続。

(3) 作物基礎研修会の開催

新規就農者が多いイチゴとトマトは、品目別に基礎研修会を開催。

(4) 新規就農者交流会の開催

新規就農者相互の交流を深めて仲間づくりを進めるとともに、指導農業士や青年農業士、女性農村アドバイザーなど先輩農家からのアドバイスを受けられる場として、交流会（筑後市）を開催。

(5) 新規就農者に対するアンケート調査の実施

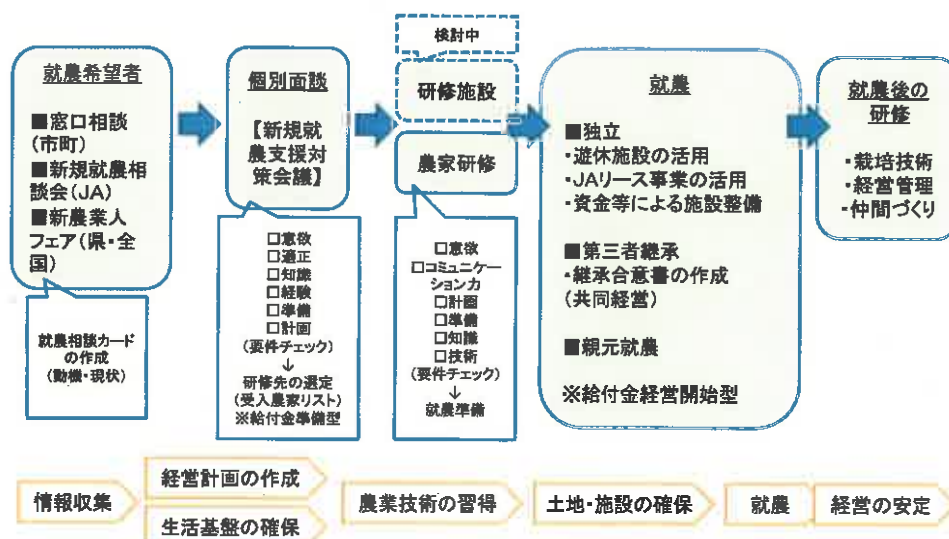
新規就農者に関する基本情報と、技術や経営など支援が求められている項目を把握するため、アンケート調査を実施。

3 活動の成果

(1) 八女地域就農サポートシステムの構築

八女地域就農サポートシステム

【八女地域農業振興推進協議会／新規就農支援対策会議】
(市町・農業委員会・JA・普及指導センター)



(2) 新規就農者数の推移

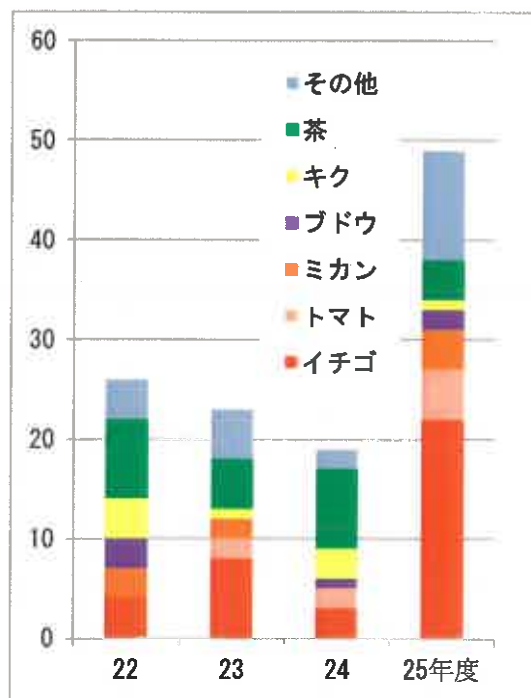


図1 品目別新規就農者数

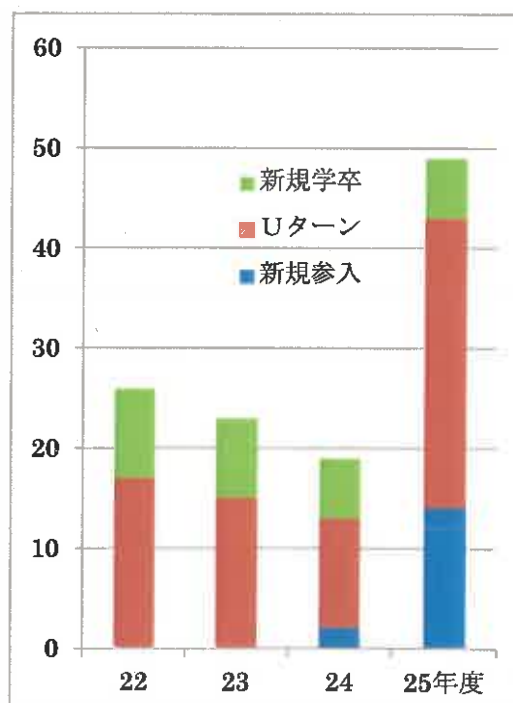


図2 就農区分別新規就農者数

4 今後の見通し又は課題

JAの研修施設が円滑に始動し、サポートシステム全体がより効果的に機能するよう、関係機関のさらなる連携を図っていく

課題名：青年農業者の育成 平成24～26年

(5) 県育成品種の生産拡大と品質向上

～「ラー麦（ちくしW2号）」「元気つくし」の収量・品質の安定への取組～

○「ラー麦（ちくしW2号）」について

【要 約】

平成 26 年産ラー麦は、作付面積を 237ha に大幅に拡大し、タンパク質含有率は品質基準値以上（11.8%）を達成した。

【目 的】

ラー麦は農家経営に有利な品種である。しかし、中華めんに適合するためにはタンパク質含有率基準値（11.5%以上 14.0%以下）を満たす必要がある。このため施肥体系の確立と穂揃期追肥の徹底により実需者が望むタンパク質含有率 12%以上を目指す。

1 活動対象の概況 平成 25 年産 2 法人:90ha → 平成 26 年産 8 法人:237ha

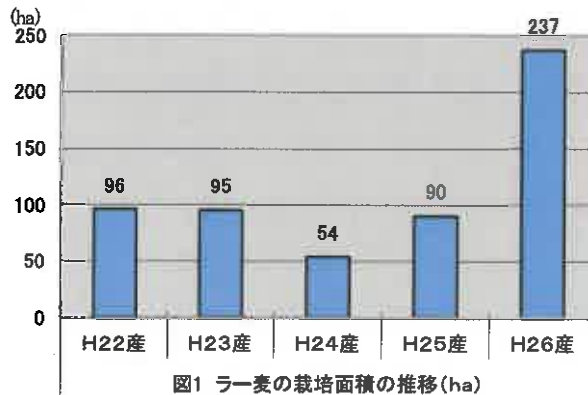
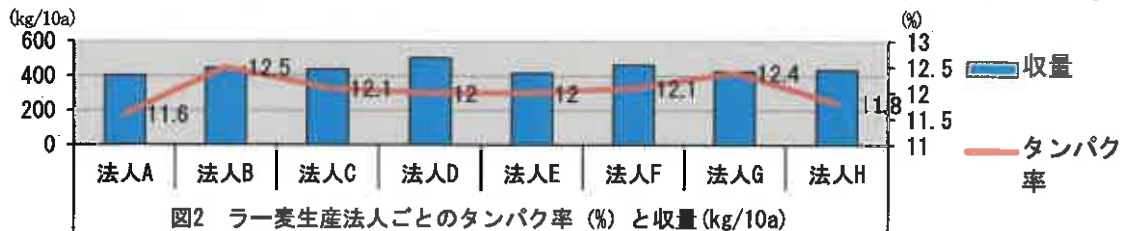


写真 1. 穂揃期追肥の徹底でタンパク質含有率向上

2 活動の内容等

- (1) 実証ほの設置と成果の活用：緩効性肥料の割合変更と穂揃期追肥の効果的な組み合わせにより、安定した収量と高いタンパク質含有率を確保できる実証ほを設置し、その成果を現地の栽培指針に反映させた。
- (2) 栽培講習会、現地巡回：講習会を開催し、ラー麦の品種特性と実需者の要望について理解を図り、穂揃期追肥施用の徹底を推進した。
- (3) ラー麦研究会の活動支援：JAと協力して、代表的なほ場のタンパク率を計測し、各法人ごとの収量・栽培法・土壌条件等との関連など、研究会時の検討材料とした。



3 活動の成果

- (1) タンパク質含有率は、目標値を下回ったものの、平均収量は 410 kg/10a を確保した上で、基準値以上の 11.8%であった。
- (2) 平成 26 年産は 8 法人 237ha に拡大した。

4 今後の見通し又は課題

- (1) 法人による組織的な作業の徹底により、穂揃期追肥を適正に実施する。
- (2) 効果的な施肥体系の確立により、収量の向上とタンパク質含有率 12%を安定維持させる。

○「元気つくし」について

【要 約】

高温耐性強い水稻「元気つくし」の作付を推進している。平成 26 年産の作付面積は 304ha となった。

また、ウンカの防除対策実証ほ展示と発生調査による的確な防除情報により、いもち病およびウンカ類の被害を回避し、目標収量 450kg/10a をほぼ達成した。

【目 的】

「元気つくし」は平成 24 年・25 年と連続してウンカ類の被害により減収した。このため、ウンカ類防除対策と施肥改善による安定栽培を実証した。

1 活動対象の概況（元気つくし研究会 416 戸 304ha）

・八女地区 76 戸 41ha ・筑後地区 255 戸 216ha ・広川地区 85 戸 47ha

2 活動の内容等

- (1) 元気つくし研究会の支援として講習会を開催し、セジロウンカの防除対策（効果の高い箱施薬剤に変更・発生予察による適期防除）に農家の理解を深めた。
- (2) ウンカ類の防除対策と安定栽培のため、農薬展示ほ、施肥改善展示ほを設置し、その効果を実証した。



写真2. 「元気つくし」展示ほの病害虫調査

3 活動の成果

- (1) 低温傾向・寡照の気象条件であったが、収量は 445kg/10a（JA 見込み）と目標をほぼ達成した。新規箱施薬剤と本田防除の徹底によりウンカ類・いもち病の被害は回避された。ただし、トビイロウンカの増殖に対応が不十分な場合も見られた。
- (2) 品質は全量検査等級 1 等の見込みである。

4 今後の見通し又は課題

ウンカ類の発生状況を調査し、緊急防除情報を発信したが、現場における伝達方法が不十分な部分もあり、さらに即応できる体制づくりが必要と思われた。今後も継続的に営農組織、個別大規模農家等の担い手による的確な病害虫防除を推進する。

課題名：「元気つくし」、「ラー麦」の生産拡大 平成 25～26 年度

(6) なす部会の活性化のための冬春ナス新規生産者支援

～収量向上に向けて～

【要 約】

冬春ナスの栽培経験年数の浅い後継者や新規栽培者が、早期に技術習得できるように、組織化し、基礎技術習得のため栽培講習会を開催した。講習会では、ナスの基礎的な生理生態の習得に加え、県育成新品種の展示や害虫に対するIPM技術などの新技術の紹介や支援を行った。この結果、全体的に技術のレベルアップが図られ平均収量が向上した。

【目 的】

近年、なす部会において冬春ナス新規就農者や後継者が増加している。しかし、栽培経験年数が浅いため、収量は部会平均を下回っていた。

このため、栽培技術の早期習得のため、新規生産者を組織化し、生産部会の定例的な講習会とは別に、新規生産者向けの技術支援を中心に取り組み、生産性の向上、収益の確保につなげることで部会全体の活性化を目指した。

1 活動対象の概況

J Aふくおか八女なす部会（筑後市、八女市(立花町、黒木町、星野、矢部)）
うち新規生産者（平成23年度6戸、平成25年度7戸）

2 活動の内容等

- (1) 生産部会・J Aと協力し、新規生産者を組織化。
- (2) 新規栽培者向け栽培講習会を年4回開催。
（基礎的な生理生態、土壌管理・施肥設計、病虫害の座学及び現地圃場巡回）
- (3) IPM技術や新品種の実証ほの設置。
（天敵を利用した病虫害管理技術、県育成新品種「省太」現地実証）



講習会の様子（土壌断面、根域調査）

3 活動の成果

新規生産者グループの収量の平均が、22年度は11.9 t / 10aであったが、25年度作では14.6 t / 10aと向上した。

4 今後の見通し又は課題

- (1) 継続して講習会を実施することによりさらなる収量の向上
- (2) 新技術の導入支援（新品種「省太」やIPM技術）

課題名：新規生産者支援を中心としたなす部会の活性化 平成24～26年

(7) 青年農業者の育成

～未来の八女農業を担う人材育成～

【要 約】

青年農業者クラブ（八女市・黒木町4Hクラブ、八女地区4Hクラブ連絡協議会）に対して、プロジェクト活動に対する支援や、地域とのつながりを深める取組を支援した。

【目 的】

後継者不足による生産量の減少や産地規模の縮小が危惧されている。そこで、地域農業や産地の維持・発展のため、将来を担う青年農業者を育成する。

1 活動対象の概況

八女市4Hクラブ8人 黒木町4Hクラブ6人
八女地区4Hクラブ連絡協議会14人

2 活動の内容等

本年度は4名の新規クラブ員が加入し、活動を開始した。八女、黒木のプロジェクト活動であるキクフレーバーティー試作、ナスの天敵利用防除に対する支援を行った。

また、地域の食育活動への協力として、黒木の幼稚園、保育園児による農作業体験や饅頭作りをサポートした。さらに、クラブ員の資質向上と南筑後地域の青年農業者との交流を図るため、技術交換大会の共同開催を支援した。



食育活動芋ほり風景

平成27年1月28日に福岡県農業青年クラブ連絡協議会の設立50周年の記念式典が開催された。このため八女地区の4HクラブのPR動画や、八女農業高校と協力し「八女の農業は女性が担う」をテーマに緋の生地をデザインしたつなぎを作成し、当日公開され、好評であった。

3 活動の成果

プロジェクト活動によって、今後の農業経営に生かせる貴重な経験が蓄積された。食育活動や農業高校との共同作業を通して地域と関わり、将来の地域のリーダーとしての自覚が醸成されている。

4 今後の見通し又は課題

プロジェクト活動等への支援を強化し、経営管理・技術研鑽などの経験の場を充実させる。

課題名：青年農業者の育成 平成24～26年

(8) 中山間地を中心とした茶工場経営体の育成・確保

【要 約】

山間地を中心に茶工場経営体の経営状況を把握するにあたり、経営診断カルテの作成、経営計画の点検等により経営状況を 52 工場で調査した。その結果、経営が悪化している状況が多く、多くの工場で確認され、実態調査をもとに関係機関や組合員と今後の方針について協議を行った。

また、一番茶期における重点的な技術支援と、茶加工機械の適正導入支援により 4 工場で経営の改善が図れた。

【目 的】

山間地の共同経営の茶工場経営体を中心に、関係機関と連携して経営状況を調査し、茶工場経営の問題や実態の把握を行う。さらに、財務・労務管理の改善に向けた取組を組合役員とともに協議し、将来計画等を策定することにより、共同経営体役員の経営能力の向上を図る。

また、一番茶期を中心に収益性の高い茶を効率的に製茶するための技術支援を行うとともに、茶加工機械の適正導入のため、事前に問題や実態を把握し、事業計画樹立、補助事業の円滑活用、資金調達等のソフト面で支援を行い、収益の向上を図る。

1 活動対象の概況

茶工場経営体 140 戸（法人 20、個人 67、共同組織 53）

2 活動の内容等

(1) 経営改善の推進

○個別相談会を J A 支店ごとに開催し、関係機関と協力して茶工場役員との個別面談を行った。

・平成 25 年度個別経営相談会(黒木、上陽、星野)10 回 (52 工場)

・平成 26 年度個別経営相談会(黒木)6 回 (今後他地区でも開催予定) (21 工場)

○関係機関との経営計画の評価、検討会

・H25 年度 3 回

(2) 製茶技術改善支援

管内重点工場 (6 経営体) に対し一番茶期に重点的に指導を行った。

(3) 省力高性能茶加工機械の導入

経営改善に向けた施設投資の分析を行い、過剰投資とならないように支援を行った。

3 活動の成果

(1) 経営改善の推進

経営診断カルテを作成し経営計画の点検等を行った結果、多くの工場で生葉処理量が減少しており、経営が悪化している状況が確認された (第 1 図)。また、費用の中で「動力光熱費」と「労務費」が占める割合が多く、これら費用の見直しが必要である (第 2 図)。



第1図 生葉処理量の今後の見込み（聞取り結果）

第2図 共同工場の主な経費の割合（H25年分）

（2）製茶技術改善支援

一番茶期の重点的な巡回指導により、安定的な製造と品質の向上が図れた。

（3）省力高性能茶加工機械の導入

経営改善に向けた施設投資に対し、高品質な荒茶を製造するために適切か否かの分析を行うため、経営計画自己点検を実施した。その結果、4工場において補助事業の活用を検討し、結果県の補助事業に取り組むこととなった。

4 今後の見通し又は課題

今後も継続的に茶工場経営体を中心に経営状況を調査し、把握したデータを元に茶工場役員や関係機関とともに対策・方針の協議を行う。さらに、地域の核となる工場の経営維持のため、より一層の経営改善を図っていく必要がある。

また、単価の高い一番茶期に効率的に製茶するため、技術改善の支援を行うとともに、茶加工機械の適正導入を図るため、事前に問題や実態を把握し、事業計画の樹立、補助事業の円滑活用、資金調達等のソフト面で支援も行っていく。

課題名：中山間地を中心にした安定継続可能な茶工場経営体の育成・確保 H25～27年

(9) 花き農家の経営改善

～キク及びガーベラ農家の経営改善～

【要 約】

キク及びガーベラ農家を対象に、個別の経営分析及び目標設定を行い、その目標達成に向けた取組みを支援することで、平成 25 年度までに経営改善された農家数はキクで 9 戸、ガーベラで 3 戸となった。

【目 的】

花き生産においては、これまで以上に経費を削減しながら、出荷数量の増加や品質の向上に取り組み、経営の安定化及び産地維持を図る必要がある。

そこで、管内の主要な花き品目であるキク及びガーベラにおいて、個別経営体の経営分析等を行い、経営を改善する。

1 活動対象の概況

- (1) J Aふくおか八女電照菊部会
(153 戸)
- (2) J Aふくおか八女花き部会
ガーベラ部広川支部(9 戸)

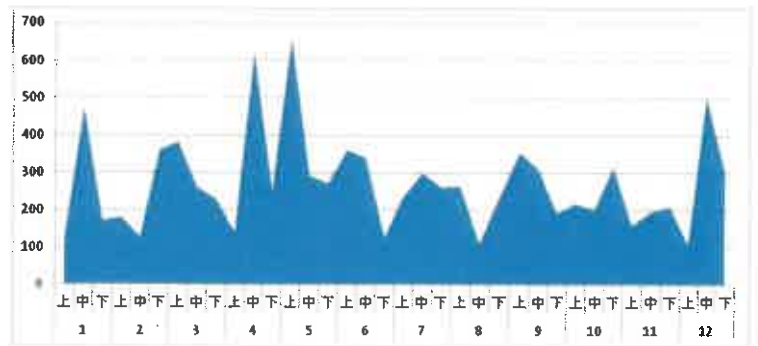


図1 労働時間の積算シュミレーション

2 活動の内容等

(1) 電照ギク

平成 26 年度は経営改善の意向がある農家 23 戸を対象に、経営分析を行った。経営分析シートから技術的課題を抽出し、年間作付計画の作成を行い作付計画からのシュミレーションによって経営的課題を抽出した。これを基に、個人カウンセリングを実施し、短期・中期・長期の経営改善目標設定とその達成に向けた行動計画の作成を支援している。また、産地支援として、産地分析に基づき今後の方向性等を関係機関と検討している。



写真1 「個別カウンセリングの様子」



写真2 「現地指導の様子」

(2) ガーベラ

9戸全戸を対象に、個別出荷実績の品種別分析を行った。それをもとに、個別カウンセリングを実施し、売上げ目標の設定とその達成に向けた品種検討を支援した。

また、個別現地指導、現地検討会及び研究会等により、出荷本数増加に向けた栽培技術向上の取組や、女性対象の経営研修等の取組支援を行っている。

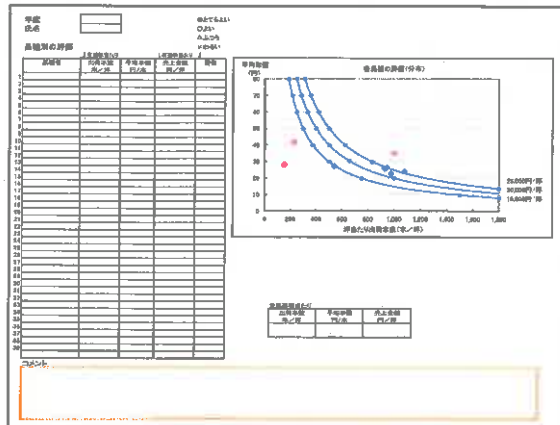


写真3 「個別実績の品種評価表」



写真4 「ガーベラ現地検討会の様子」

3 活動の成果

経営分析による課題の明確化、農家との課題共有化、目標設定及び行動計画の作成等を行うことによって、個別農家経営の改善支援のゴールを明確にすることができた。

また、ガーベラのH26年度作付品種については、品種入れ替えが行われた約30品種のうち約10品種がH24年度産品種分析の結果を踏まえたものとなった。

電照菊部会への支援については、産地分析等を行うことにより、現状の把握と課題の共有化ができ、課題解決へ動き出した。

4 今後の見通し又は課題

今後は、個別目標の達成に向け、栽培技術の向上や労働時間の平準化など多面的に支援する必要がある。また、経営規模ごとの事例を支援モデルとし、部会全体への波及効果（支援）につなげる方法を今後も検討する。

課題名：電照ギクの経営改善、ガーベラ経営の改善 平成24～26年度

(10) ナシの重要病害赤星病の発生状況と対策

～持続的可能なナシの安定生産を目指して～

【要 約】

ナシの重要病害赤星病の被害が年々増加する中、ビャクシン類の状況把握や住民等に対する周知徹底を図る一方で、赤星病に対して効果が高かった一部の薬剤で効果が低下していることが判明した。

【目 的】

近年、八女地域では、ナシの重要病害である赤星病の発生が増加傾向にあるため、赤星病の伝染源となるカイズカイブキ等のビャクシン類の把握に努めるとともに、胞子飛散ピーク直前の適期防除の励行に取り組んだ。

一方、八女地域は全国有数の園芸産地で、多様な品目が隣り合って栽培されていることから、使用できる薬剤が限られている。同一薬剤の連用で効果の低下が懸念されるため、地域内における赤星病の発生状況の把握に努めた。

1 活動対象の概況

J Aふくおか八女なし部会（筑後市、八女市）

2 活動の内容等

- (1) 赤星病の伝染源となるビャクシン類の冬胞子堆飛散ピークの把握（筑後市、八女市、広川町）



冬胞子堆の膨潤状況の調査

- (2) 防除適期情報の提供（各地区講習会、FAX送信）

- (3) 赤星病対策委員会（J Aふくおか八女なし部会）や八女地域農業推進協議会果樹部会（J A、市町村、ふくれん、農林、普及センター）との連携による情報交換

- (4) 農林業総合試験場と連携した現地の実態調査（筑後市、八女市）



小発生(13%)

赤星病の病斑は目立たない
(生育上問題無し)



中発生(65%)

赤星病の病斑が目立つ
(生育上問題あり)



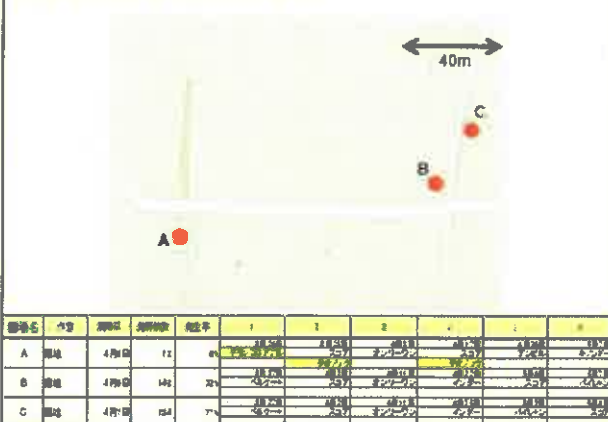
多発生(98%)

赤星病の病斑がかなり目立つ
(収量に影響)

赤星病の発生状況(八女市)

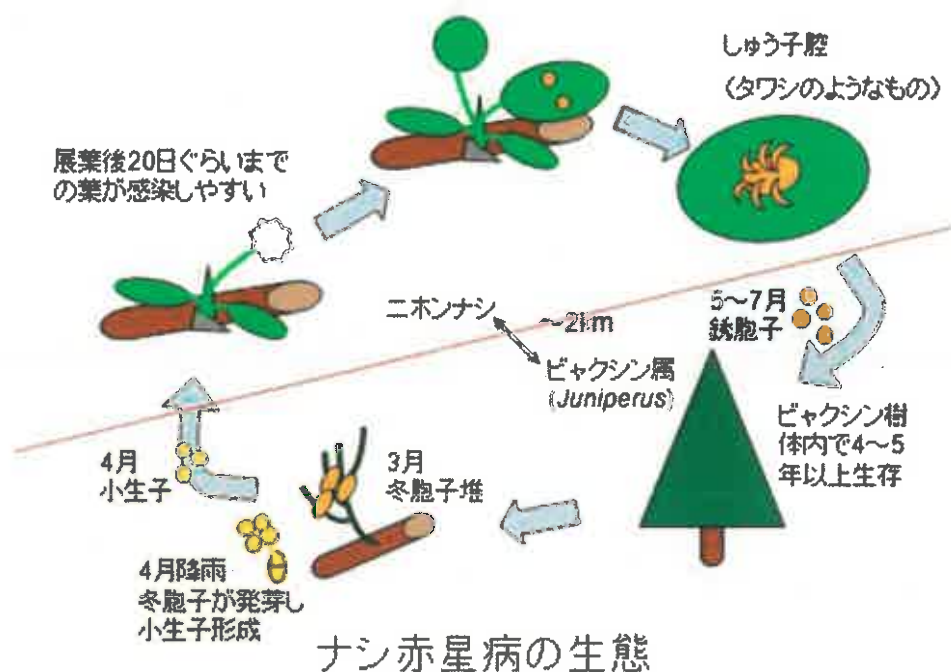


赤星病の発生状況(筑後市)



3 活動の成果

ビャクシン類の状況把握と適期防除の推進で赤星病対策を徹底したものの、他品目との隣接園で赤星病が多発傾向にあり、効果的な薬剤の検討が必要である。



4 今後の見通し又は課題

- (1) 赤星病の伝染源となるビャクシン類の状況把握と周知徹底
- (2) 防除体系の再検討による効果的な防除方法の確立

課題名：ナシ産地を支える中堅農家確保・育成

平成 24 年～26 年

4 平成 26 年の気象と各作物の生産概況

(1) 平成 26 年気象概要

- ・春(3月～5月)：晴れる日が多く、日照時間は平年よりかなり多くなった。
- ・夏(6月～8月)：多雨・日照不足となった。(低温、降水量多、日照時間少)。
- ・秋(9月～11月)：気温や降水量、日照時間とも平年並みとなった。
- ・冬(12月～翌年2月)：気温は低く、降水量は多く、日照時間は少なくなった。
- ・台風接近は4個と平年(3.2個)より多く接近したが、大きな被害はなかった。

(2) 各作物の概況

○水田農業係

- ・麦：播種は11月21日～24日、12月上旬に多く行われた。12月～3月は気温が大きく変動し、生育は平年並みに推移したものの、出穂、成熟はやや遅れた。3月以降は、断続的な降雨があったが、高温、多照で推移し、収穫期も晴天に恵まれたため、刈取りは順調に進み、収量は平年並み～やや多くなった。
- ・水稻：生育期間を通じて、寡照、低温傾向で推移したため、山間部の一部と夢つくしや元気つくしにいもち病が発生した。茎の充実不足が懸念されたが高温障害は見られず品質は良好。中生品種以前の収量は平年並みとなった。なお、晩生品種では9月上旬からトビイロヅカが増殖し、坪枯れが発生したため、ヒヨクモチは低収となった。
- ・大豆：7月中旬の降雨により、播種はやや遅れたが7月24日にほぼ終了。一部7月28、29日の遅播きとなった。8月の低温寡照により生育不足となり、また、ほ場も乾かなかったため、土入れ等の管理作業は遅れる傾向となった。開花期は平年より遅れたものの、9月以降は天候が回復したため、成熟期は平年並み～やや遅い程度となった。収量は、粒数が数が少なく、粒が軽いため少なくなった。なお、台風19号の強風により一部で倒伏が発生した。

○野菜係

- ・年明けから比較的好天が続き、周期的な気象変動はあったものの、春先まで好天となった。このため、イチゴ、ナス、トマトなど果菜類の出荷は、ほぼ順調に推移した。イチゴでは、気温の変動による樹勢過多の傾向で不受精果の発生も見られた。リーフレタスなどもほぼ順調な出荷となった。
- ・4月以降、梅雨入りまで好天が続く傾向であったが、7月以降は集中的な豪雨があり、また、夏季は比較的低温気味に推移したため、夏秋野菜の生産遅延や病害の発生があった。イチゴでは、苗の生育(展葉)が遅くなり、根痛み、病害の発生もあり、定植後の初期生育にも影響した。
- ・8月以降は、台風の接近が多く、秋冬野菜の定植準備が計画的にできなかった。これらのことは、土壌消毒において地温が上がらず防除効果が十分でなくなることもつながった。
- ・10月も台風の接近があったことから、露地野菜に風痛みなどの影響があった。
- ・11月以降は、徐々に低温傾向が顕著になり、野菜の生育は遅れ気味となった。

○花き係

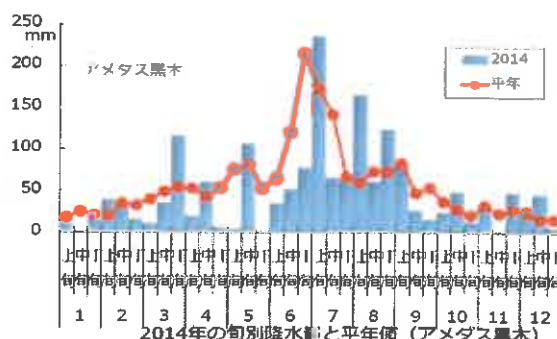
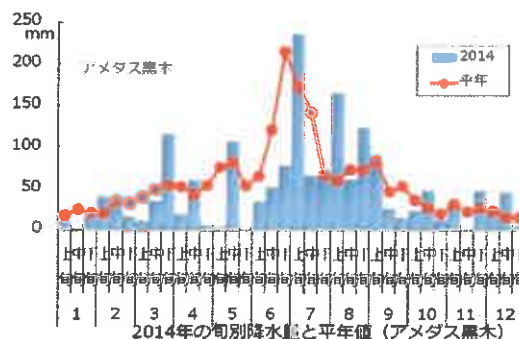
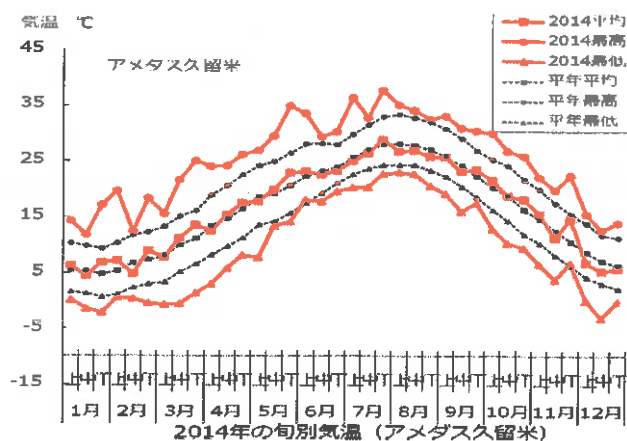
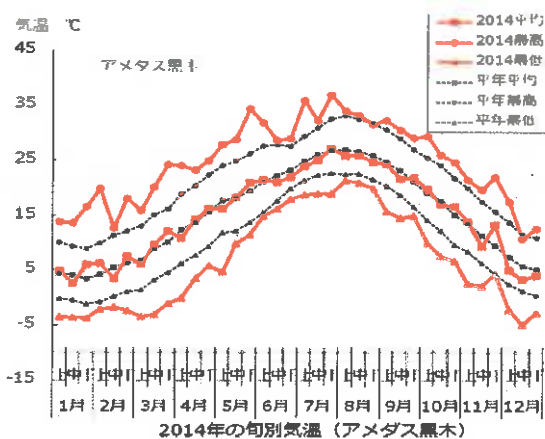
- ・夏季に冷涼な気候であったため、ガーベラ、バラ等の生育は良好であったものの、うどんこ病が多発した。キクでは、4月以降、少雨傾向であったため、ダニやアザミウマ類などの害虫が多発した。また、アザミウマ類の媒介するえそ病も感染が拡大した。

○特産係

- ・一番茶は、3月下旬が平年より暖かく、4月上旬が冷え込んだため、上位芽と下位芽の伸長差が開いた。摘採時期の4月下旬から5月上旬に降水量が少なかったため、生育がゆるやかになり、順調に摘採、加工が進んだ。5月上旬の低夜温により、山間部の一部地域では降霜による被害があった。
- ・二番茶は、6月上旬に降雨がなかったため、生育の早い園では、摘採が順調に進み、製品の大型化が少なかった。生育が遅い園では降水量が少なかった影響で、芽の伸長が鈍化した。
- ・夏場の多雨・日照不足により、炭そ病や新梢枯死症が多発した。

○果樹係

- ・2月～3月：温度変化が大きく、多くの果樹で展葉～開花は、昨年より数日程度遅くなり、おおむね平年並みとなった。
- ・3月～4月：低温、晩霜で、ナシの発芽不良、スモモの開花バラつき、キウイフルーツの芽枯れ、ブドウ（有核）の単為結果等が一部にみられた。ナシの赤星病の多発や重要病害であるキウイフルーツのかいよう病の発生が、産地規模の問題となった。
- ・5月～6月：晴天日数が多くスモモ、モモ、ウメ等の核果類は比較的安定した生産となった。
- ・7月～8月：多雨・日照不足により、夏果実（ナシ、ブドウ、イチジク等）の品質や次年度作の花芽形成に影響が出た。
- ・9月以降：天候が回復し、秋果実（ミカン、キウイフルーツ、カキ）の肥大は良好で、かんきつ類は青果率が高くなった。しかし、品質は、7月～8月の長雨・日照不足が影響し、例年より低糖低酸傾向で推移した。



5 平成 26 年度 表彰事業実績

表彰事業名	部門（品目）	賞区分	受賞者名	市町村
平成 26 年度 全国優良経営体表彰	集落営農部門	農林水産省 経営局長賞	（農事組合法人） ファーム島田	筑後市
第 68 回全国茶品評会	煎茶 4 kg	農林水産大臣賞	（農事組合法人） 八女美緑園製茶 山崎隼平	八女市
第 68 回全国茶品評会	玉露	農林水産大臣賞	宮原義昭	八女市 星野村
第 16 回全国果樹技 術・経営コンクール	果樹（ナシ）	農林水産大臣賞	J A ふくおか 八女なし部会	八女市
第 68 回全国茶品評会	煎茶 4 kg	農林水産省 生産局長賞	（農事組合法人） 八女美緑園製茶 代表 古川明俊	八女市
第 68 回全国茶品評会	玉露	農林水産省 生産局長賞	栗原昭夫	八女市 矢部村
第 68 回全国茶品評会	玉露	農林水産省 生産局長賞	竹下逸男	八女市 上陽町
平成 26 年度 福岡県麦作共励会	麦（集団）	優良賞（知事賞）	農事組合法人 たかえ	筑後市
平成 26 年度 福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 （電照菊ギク）	農林水産大臣賞	丸林京市	八女市
平成 26 年度 福岡県茶共進会	煎茶	農林水産大臣賞	樋口龍也	八女市 上陽町

平成 26 年度 福岡県茶共進会	煎茶	九州農政局長賞	(農事組合法人) 彩香 代表 桐明靖廣	八女市
平成 26 年度 福岡県茶共進会	玉露	農林水産大臣賞	宮原義昭	八女市
平成 26 年度 福岡県茶共進会	玉露	九州農政局長賞	城 昌史	八女市 黒木町
平成 26 年度 福岡県茶園共進会	煎茶園	農林水産大臣賞	近藤正人	筑後市
平成 26 年度 福岡県茶園共進会	玉露園	九州農政局長賞	堀川祐介	八女市 黒木町

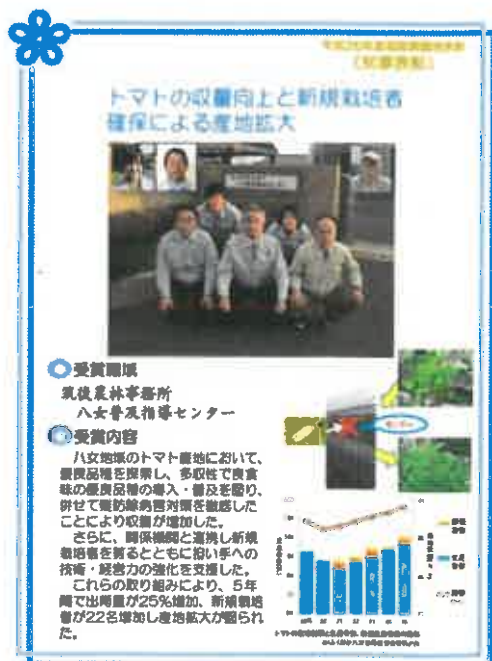
八女普及指導センターがトマトの産地育成で知事表彰 ～八女のトマト産地拡大に貢献～

福岡県は、優れた成果を挙げた組織を表彰する制度があり、今回当センターがトマトの産地育成で知事表彰を受けました。

平成 19 年度から「トマトの収量向上」を課題に設定し、J A と市町等の関係機関と一体となり技術改善と新規栽培者の確保を目的に取り組んできました。

今回の受賞は、その意味でも関係機関や生産者と共に評価されたことになります。

普及指導センターは、今後も産地が発展するように活動していきます。



6 平成26年度 実証ほ一覧

係	品 目	事業名等
水田農業係	ラ一麦「ちくしW2号」	新技術事業
	水 稻 品 種	奨励品種決定現地展示ほ
	水稻「夢つくし」	肥料展示ほ
	水稻「元気つくし」	米づくり運動実証展示ほ
	水稻「ヒヨクモチ」	もち米生産研究会実証ほ
	水稻「吟のさと」	優良品種等展示ほ
	飼料米用「ツクシホマレ」	飼料用米低コスト多収生産実証ほ
	大 豆	新技術事業
	大 豆	大豆麦飼料用米等生産拡大支援事業
	水 稻	農業展示ほ
	水稻「元気つくし」	産地ブランド発掘事業
野菜係	イ チ ゴ	調査研究課題
	イ チ ゴ	現地課題解決
	ナ ス	新技術事業
	ナ ス	新品種現地実証試験
	ト マ ト	降温対策
	ト マ ト	品種比較試験
	イチゴ、ナス	農業展示ほ
花き係	キ ク	新たな花き需要創出対策
	ア ジ サ イ	産地ブランド発掘事業
	ガ ー ベ ラ	肥培管理実証ほ
特産係	茶	農業展示ほ
		調査研究課題
		調査研究課題
果樹係	カ ン キ ッ	台湾向けみかん生産実証ほ
		調査研究課題
	ナ シ	農業展示ほ
		省力型整枝
		調査研究課題
	ブ ド ウ	調査研究課題
		調査研究課題
		現地課題解決研修
		農業展示ほ
	イチジク	現地課題解決研修
	キウイフルーツ	立ち枯れ症対策

課 題 名
収量およびタンパク質含有率の安定向上のための肥料体系の確立
中山間地における奨励品種の選定「ちくし88号」、「ちくし91号」
緩効性肥料「軽量らくだ君」による早生水稻の生育・収量・品質への効果
「元氣つくし」のウンカ防除対策のための簡易施用可能な農業体系の検討
新規一発肥料「エムコートS140H入り2220」による収量品質の安定生産
晩生品種「吟のさと」の生育・収量安定のための緩効性肥料の改善
堆肥連用施用条件で収量確保を目的とした施用法の実証
簡易水分計を利用した灌水による大豆増収効果、開花期追肥効果の実証
ブラウ耕で排水を促進することによる出芽安定、生産収量向上効果の実証
ブイゲットフェルテラチスL粒剤・フェルテラスタークル箱粒剤CU(箱施薬剤)、ゴエモン1キロ粒剤(除草剤)の効果検討
「元氣つくし」の良食味(特A米)栽培実証
かん水制限の数値化。コルク果の原因調査。高収量農家の温度管理調査
第1次腋花房誘導苗現地適応試験
天敵(スワルスキーカプリニ、タバコカスミカメ)を利用した害虫防除
県育成品種「省太」の現地適応性試験
夏秋トマトにおける被覆方法の改善による着果率向上
大玉トマトにおける品種比較
モベントフロアブル(イチゴ、ナス) アフェットフロアブル(アスパラガス) ザンプロDFフロアブル(トマト、ミニトマト) アニキ乳剤(非結球レタス)
輪ギク「雪姫」のフルブルームマム作出を目的とした開花液の検討
県育成アジサイに対する施肥時期及びわい化剤処理方法の検討
ガーベラにおける株枯れ対策
ファンタジスタ顆粒水和剤、アグリメック
クエン酸資材の施用が茶樹の根および生育へ及ぼす影響の調査
トリコデルマ菌の壁の毛病に対する効果の検証
樹冠上部摘果による高品質果実生産技術確立
早味かん、福岡20号等優良品種の現地適応性
ファンタジスタ顆粒水和剤のナシの黒星病に対する影響
ジョイント整枝による省力効果
八女地域における赤星病の発生状況と対策
シャインマスカットの果梗部黒変症状の硫酸マンガン処理による抑制効果
シャインマスカットにおける環状剥皮処理が果実品質に及ぼす影響
シャインマスカットにおける新梢管理方法の検討
ディアナWDGのブドウのチャノキイロアザミウマに対する影響
「とよみつひめ」栽培における低コスト簡易雨よけ施設の検討
異なる台木を用いたキウイフルーツ苗木の生育への影響

240

241

7 平成26年度 現地活動情報

(県HP掲載)

No.	タイトル	係 名
1	ガーベラ記念日PRイベント「広川の日 ガーベラ祭」	花き係
2	八女茶手もみ競技大会の開催	特産係
3	八女茶 新茶初入札会が開催される	特産係
4	八女地区 4Hクラブ総会が開催される	野菜係
5	ラーメン用小麦「ちくしW2号」ブームスプレーヤーによる葉面散布を実施	水田農業係
6	八女で農業にチャレンジ	地域係
7	全国から輪ギク若手生産者が集う！	花き係
8	茶品質のトップを競う！	特産係
9	イチゴ経営一人前を目指して	野菜係
10	大果・高糖度系スモモ「貴陽」出荷開始	果樹係
11	ブドウ「シャインマスカット」出荷への道のり	果樹係
12	J Aふくおか八女いちご部会出荷反省会の開催	野菜係
13	経営ビジョン作成研修を開催！	地域係
14	筑後市新規就農者ネットワーク研修会を開催！	地域係
15	八女電照菊部会 夏菊切花品評会	花き係
16	筑後市でぶどう収穫体験	果樹係
17	ふくおかエコ農産物PR取材in黒木ぶどう	果樹係
18	大豆圃にプラウ耕で排水促進	水田農業係
19	法人の決算指導会を実施	水田農業係
20	緑の風総会、研修会を筑後市で開催！	地域係
21	イチゴ基礎研修会基礎編2回目開催	野菜係
22	PRイベント「重陽の節句」	花き係
23	リーフレタス新規就農者講習会	野菜係
24	ナス部会の維持拡大のための提案	野菜係
25	世界でたった一つのオリジナル紅茶を作ろう	特産係
26	イチゴ栽培基礎研修会「基礎編」3回を開催	野菜係
27	トマト栽培技術基礎セミナーを開催	野菜係
28	食品産業で新たな学び 青年農業士筑後支会研修会開催	野菜係
29	農業経営力の向上を目指して、雇用型経営研修会を開催	花き係
30	現場で技術を学ぼう	野菜係
31	「あまおう」順調に出荷出揃い	野菜係
32	八女地域の花でフラワーアレンジメント	花き係
33	八女4Hクラブ意見・実績発表大会開催	地域係
34	イチゴ栽培基礎研修会「実践編」2回を開催	野菜係
35	お茶づくりの基礎に関する研修会を開催	特産係
36	青年農業士、八女市矢部に学ぶ	野菜係
37	共同工場から法人へ、笠原緑茶組合の設立総会が開催される	特産係
38	タイ王国向けみかん輸出を目指して ミンパエ・モニタリング調査の実施	果樹係
39	平成26年度福岡県花き品評会	花き係
40	吟のさと研究会の反省会で意見交換	水田農業係
41	栄えある農林水産大臣賞を受賞 福岡県茶業共進会褒賞授与式並びに生産者大会開催	特産係
42	第2回トマト栽培基礎セミナーを開催 新規参入・後継者の早期技術習得を目指して	野菜係
43	八女4Hクラブ×八女農業高校 久留米餅でアレンジしたオリジナルつなぎ作成	果樹係
44	J Aふくおか八女水田フル活用ビジョン推進大会の開催	水田農業係
45	八女地域農推協果樹部会にて総合研修を実施 ～果物を用いた新商品開発に向けて～	果樹係

福岡県行政資料			
分類記号 PA	所属コード 4703524	登録年度 26	登録番号 0001

福岡県筑後農林事務所
八女普及指導センター

〒834-0005
福岡県八女市大島360
電話 (0943)23-3106(代)
FAX (0943)23-3107